

#### 4. その他

環境省ではこのグリーン復興プロジェクトを、25年11月に仙台で開催された「第1回アジア国立公園会議」で紹介した。この会議は、「自然災害と保護地域」や「保護地域の協働管理」といったテーマについて、アジアの国々が初めて一堂に会し、今後の取組の方向性を話し合ったもので、最終日には「アジア保護地域憲章」を採択した。同憲章には、保護地域が自然災害のリスクの高い場所における地域の回復能力(レジリエンス)を強化する上で重要であること、また被災地における自然再生は地域社会の復興に貢献し、自然環境や生態系に対する人々の理解の促進につながるなどが盛り込まれた。本年11月にはシドニーで「第6回世界国立公園会議」が、来年3月には仙台で「第3回国連世界防災会議」が開催される。環境省では、三陸復興国立公園やみちのく潮風トレイル等の取組を通じて得られた防災や復興に係る経験を、これらの場で発信していきたいと考えている。

り込まれた。本年11月にはシドニーで「第6回世界国立公園会議」が、来年3月には仙台で「第3回国連世界防災会議」が開催される。環境省では、三陸復興国立公園やみちのく潮風トレイル等の取組を通じて得られた防災や復興に係る経験を、これらの場で発信していきたいと考えている。

\*本稿に関する詳しい情報は、下記のWebサイトに掲載されているので併せてご参照願いたい。  
 グリーン復興プロジェクト  
<http://www.env.go.jp/jishin/park-sanriku/index.html>  
 第1回アジア国立公園会議  
<http://asia-parks.org/j/>

### 平成26年度研修会の実施予定

目 標	造 園 修 景		
テ ー マ	造	景	環
研修会名	・造園夏期大学	・伝統庭技研修会 ・東洋庭園文化研修会	・都市緑化のための土壌・農薬病害虫対策研修会
研修内容	・多様なみどりの施策と管理運営 ・集約型都市づくりとオープンスペース ・公園利用促進の取り組み ・NPO法人による市民協働の公園管理	・伝統庭技の継承 京都府の名園(日本庭園)の現地講習	・緑化樹、花卉、地比類等の病害虫、菌と農薬の使用 ・農薬・土壌・肥料・土壌改良剤等の実例 ・樹木管理の実例 ・実践的講義、現場実習
実施日	平成26.8.28～29(東京)	・伝統庭技研修会 平成26.11.27～28(京都) ・東洋庭園文化研修会 平成26.5.16(東京浅草寺等)	平成26.5.22～23(東京会場) 平成26.9.4～5(神戸会場)



【表紙の説明】 桜ライン311 第1号植樹地

(2011.11.06)

陸前高田市高田町の山裾、浄土寺への参道わき斜面の津波到達ライン(標高22m)に植えられたカワツサクラ若木。広田湾に臨む低平地は一部が嵩上げ(端部標高9～11m)され、新市街地としての整備が計画されている。

[NPO 桜ライン311 提供]

## 被災地の津波到達ラインへの桜植樹運動について

— 桜ライン311がもつ緑の復興まちづくりの推進力 —

(株)都市計画研究所

専務取締役 石川 純



### \*はじめに

東日本大震災から3年となる。

NPO桜ライン311が活動する岩手県陸前高田市でも復興へむけて各分野での事業が相次いで工事着手されている。

浜辺の国道45号は事業名称のステッカーをつけたダンプカーがひっきりなしに往来して、瓦礫の山がなくなったら試験盛土の山、そして本格的な高台切り出しや嵩上げ、海岸での防潮堤の建設などが進められている。



■切下げる里山とベルトコンベア

本稿では桜ライン311が実施している桜植樹運動について、筆者が参加することができた2013年秋の植樹会の模様を交え報告し、復興まちづくりに果たす意味を考えてみたい。

### 1. 陸前高田市における東日本大震災の被害と復興構想

岩手県のリアス海岸の中では、陸前高田市は低平地が広がる都市であり、県内で一番多くの死者・行方不明者を出した。東北地方の沿岸都市全体でも石巻市に次いでいる。

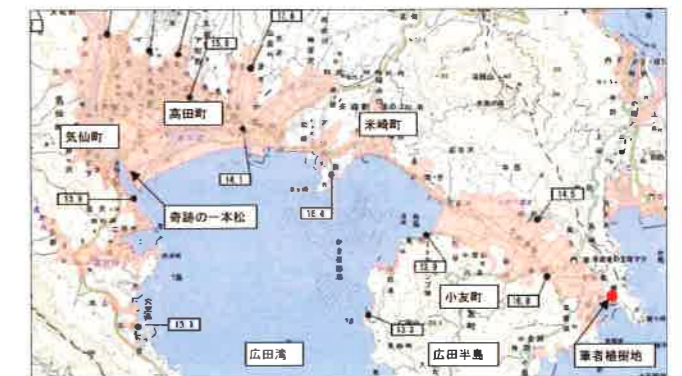
この街の中心市街地を壊滅させた津波の浸水高は、高いところでT.P.18mに及び、高田の松原を越えて市役所はじめ低平地の全市街を飲み込み、わずか5分強で本丸公園の高台まで到達したと推定されている。

その被害は、死者・行方不明者、関連死を含め2,213名、全壊・大規模半壊・半壊は3,341戸であった。

人的被災状況を各町別にみると、中心市街地である高田町では当時の居住者数に対して死亡者数の比率が15.3%、気仙町7.4%と高いのに対して、半島の漁師町

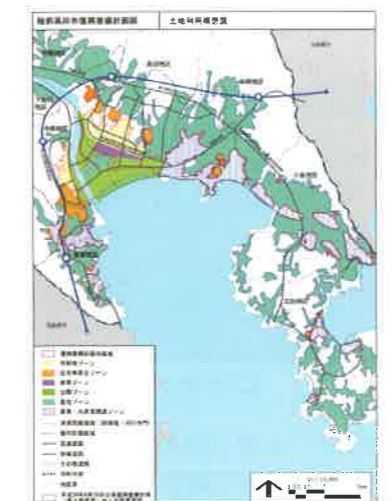
である広田町では1.5%、東西から津波が進入した小友町で3.1%にとどまっている。

高田町は海岸から離れ直接海が見えない市街で、「チリ津波でも大船渡線を越えて来ることはなかった、だから大丈夫。」との思いこみが避難の遅れを招いたとも指摘されている。



■陸前高田市(中央部)浸水区域図

市の復興構想(H23.12)は、このような被害を2度と出さない安全なまちづくりのため、基本として区画整理事業と防災集団移転事業により公共公益施設や居住地向けの高台開発と移転を進め、防潮堤の整備や防災道路網の形成を図り津波防災と減災を組み合わせた計画としている。



■土地利用構想図(H24.11.26)

緑に関わることでは、2013年7月に「奇跡の一本松」の復元がなり、高田松原の再生と震災遺構を取り込んだ復興祈念公園の構想検討が進められている。

また低地部での公園整備、浸水区界や住宅等移転跡地のメモリアルグリーンベルト整備などがあげられている。こうした中で桜ライ

ン311の活動は、多くのボランティアを集め、緑のまちづくりとして実績をあげている。

## 2. 桜ライン311縁起

陸前高田市の戸羽 太市長は、震災当日127人の職員・市民と4階建ての市役所屋上から塔屋へ上りかろうじて巨大津波を逃れ、雪の降る一夜を過ごした方だ。2011年8月、応急対策期の記録を新書として刊行し、そのなかで次のように記した。

「私には大きな夢があります。それは陸前高田に桜の木をたくさん植えることです、花見をすることで春を満喫するのです、人間らしい生活を取り戻すため、そして自然に囲まれた「ふるさと」をよみがえらせるためにも、ぜひとも実現させたい。」

その本を読んだ橋詰琢見元代表はすぐさま「青年団に取り組みさせてください」と市長のところに飛び込んだ。津波を警告する石碑があったのに大きな被害が出たことから、「桜を津波石の代わりに」と佐藤一男副代表が提案した。

桜を植えるため、チラシを撒いたり知人を頼ったりして土地所有者を訪ねるのだが、「今後の土地の使い方が決まっていない。」とか「まだ、思い出したくない。」と言う方もおり、強くお願いできない微妙な時期だったという。

桜を植えやすい所ではないことや、土地所有者のものであり今後どうなるか分からない土地であることなど、活動の実現には多くの制約があった。

2011年10月16日に設立総会を開催、11月6日に高田町の浄土寺で若木4本、苗木1本を初植樹、続く2012、13年にも春秋ごとに植樹会を開催してきた。

この間2012年5月1日法人格を取得している。役員として理事7名幹事1名、事務局3名の体制である。

次に2013年6月30日までの「法人2期活動報告書」に基づいて桜ライン311の活動を紹介してゆく。

### 1. 活動趣旨

「私たちは、悔しいんです。

次の世代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。」

### 2. 事業内容

\*桜の植樹事業（別項にて）

\*普及啓発事業 津波の怖さと備えの重要性を子孫の代まで風化させずに伝えるべく、広報からイベント

企画まで積極的に展開している。

メディア掲載は、新聞22件、テレビ8件、ラジオ5件、雑誌5件、その他11件となっている。また講演については、郡上八幡「桜ライン311」を支援する会150名はじめ17件を数える。

\*政策提言事業 岩手県や陸前高田市ほかの防災など企画立案のための会議等に参画し、事業の進展に寄与するよう努めている。

### 3. 年間スケジュール

これらの諸活動を植樹適期である2月と11月の年2回の植樹会を基本に、その準備のための植付け地募集、土地確認、植付け完了地確認・メンテナンスを行っている。



■桜ライン311 年間スケジュール

### 4. 協力要請

継続的な活動を実現するため、様々な形での協力を求めている。

1) 桜の植え付け地の紹介：主に陸前高田市の人々への依頼。津波の最高点を記憶しておき、桜を植える場所の紹介を依頼している。

植樹場所は原則として「海側へ20m山側へ30m以内、高低差下1m上2m以内」としている。

2) 2タイプの植樹会：通常通りの2m程度の苗を使用する植樹会と、2013年から実施している鹿の食害への対応のため背の高い4m程度の苗を使用する植樹会があ

る。当日09:30頃の集合、解散は15:30頃を予定。

3) ボランティアの募集（すべて満たすこと）：

- ・原則1～10名程度のグループでの参加
- ・集合場所、活動現場まで自力移動、マイカー等での参加
- ・植付地は急傾斜地等になる可能性あり、安全作業に留意
- ・汚れても問題ない服装（長袖長ズボン、長靴、軍）
- ・食事、水、タオルなど
- ・事前にボランティア保険に加入

4) 苗木募集：植え付け地の特性上、塩害・冷害・その他病虫害に強い品種として、ベニシダレ・ベニヤマザクラ（オオヤマザクラ）・オオシマザクラを種とする。2ないし3年生、地上高1.5～2m程度のもので、根は土を付けた状態で輸送が可能なもの。

5) 協賛金：植樹する苗木代等植樹に関わる諸費用、一部運営費用に使用。

6) マンスリーサポーター：「植える」だけでなく、「後世に残していくために」として特に管理に比重を置いた諸活動のための継続的な寄付。

## 3. 2013秋の植樹会体験記

2013年秋の公募による植樹会は2次にわたって募集、開催された。9月17日メールマガジンで募集を開始、9月30日には定員数に達して締め切っている。

私が参加したのは、11月16日（土）200名程度、通常通りの植樹会で、2m程度の苗を使用するものであった。

11月16日土曜日、風もなく快晴、前の晩にお世話になった広田町根岬「漁師の宿 志田」でみた津波襲来時の長回しビデオ。何度も高まり押ししてくる大波が岩礁や漁港の堤防に当たって立てるしぶき、そのなかで横転する漁船。切迫した「来るぞ、上がれ！はやく上がれ！」の大声。それらが全く別物のように感じられる穏やかな太平洋、静かな港に数少ない漁船、晩秋の紅葉した山肌。

復興基盤総合整備事業で重機が何台も稼働する低平地を見やりながら、駐車場に指定された小友小学校へ着く。ナンバープレートを見回すと、関東地方や仙台あたりからが多い。会場の小友ふるさとセンターまで徒歩で5分。

9時半からの受付をすますと、室内には既に大勢の参加者が待機している。手渡された「ボランティア要綱」や「桜苗木の植え方シート」に目を通す。続々と参加者が集まる。

この日は100本の桜苗を200人の参加者で植え付ける

のだという。受付状況を確認しつつ各方面の10本を担当する20人ずつのチーム編成を行う。到着の確認など組み合わせに手間がかかり、野外の広場でセレモニーが開会したのは11時少しまえだった。

はじめに犠牲者への1分間の黙祷。岡本翔馬理事長の歓迎の挨拶、次いで佐藤一男副理事長の説明と作業上の諸注意、記念写真撮影と続いて、4ヶ所に分かれ、植え方シートに従った植え付けの実技指導。



■参加者200名での記念撮影

さて我々2人組の担当は同じ小友町唯出、戸羽伸一さんのお宅と決まり、地図と付近写真の案内書を借りる。グループ全体に割り当てられた資機材からスコップ、改良土、発根促進剤、支柱、スギ皮、結束シュロ縄、目印リボンを預かって出発。

昼食後お宅へ連絡を入れ、案内書の示す街角まで行くと、作業に立ち会われる奥様がお見えだ。只出地区も津波での被災は激しかった。



■唯出地区の浸水状況

当日ご主人が撮影された写真を拝見しながら、津波被災の様子を伺う。強い引き潮で只出海岸の海底が見えた。防波堤が破壊され、リフォームしたばかりの公民館や近隣の民家も



■変わり果てた唯出地区

次々津波で流失した。地区100戸のうち、46戸が全壊、7名が亡くなっている。戸羽さんのお宅では階下の車庫は天井近くまで浸水し車は廃車となったが、自宅は玄関先で奇跡的に波が止まり、浸水を免れている。一段高いお庭でサツキを別のところに移し換え、その跡に植えることになった。桜の植え穴を整えてシートの示す手順でマメザクラを植え付けていく。



■スコップの位置に植樹

作業の間にも桜ラインへの参加・協力のわけや、桜の生長にこめたお気持ちを伺うことができた。周辺が厳しい状態のなかで、自分たちでできる復興への協力として、案内を見て応募されたとのことだった。

覆土してしっかり支柱を結束し終え、水鉢を切って一段落。道具の片付けのあと、時間があるならお茶をと地区の自慢の集会所へ案内いただく。

お茶と菓子、ツミレ汁をごちそうになりながら、ガレキの片付け、この集会所の整備から、いま裏山で始まった防災集団移転事業の造成まで



■桜苗をまえに夢を伺う

のこと、さらにはご自身のお気持ちの移り変わりや多くのことをお話いただいた。津波被災体験の悔しさとかなしさがこころ深くしみた。桜の咲く春を願っておいとます。再び小友コミュニティセンターへ戻り、活動報告書とアンケートにそれぞれ記入して4時までに解散。

こうして昨秋の植樹会は11月9日、16日両日のほか地元中学校、高等学校の生徒たちとの植樹や理事による植樹も実施した結果、桜は通算159カ所、647本となった。

#### 4. 桜植樹運動の意義と展望

今次震災においても、発災以降、緑は被災した人々を慰め支え、つなぐものとしてとらえられ、さまざまな人々や団体により多くの試みがなされてきた。

別れの花、なぐさめ癒す花、仮設団地の花壇、緑のカーテンと仮設菜園、松原の再生や新たな森づくりへ向けた苗づくりや植樹などだ。緑の本質、最も深いところは、人の尊厳を守り希望を支えるもの、人をつなぐものとしてのちからであったろう。

桜ライン311にも、分かりやすい緑の特質がある。  
\*亡きものたちへの鎮魂と記憶の継承を誓う明快なコンセプトは、花をもって送る私たちの作法に合うも

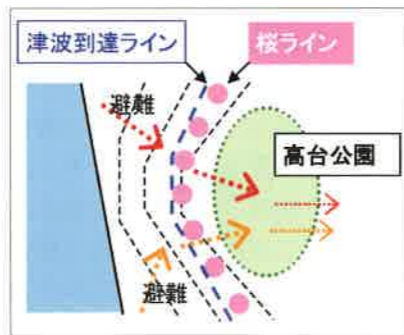
のであり、その出来事を語り伝える力を持っている。  
\*千年を人が人に語り伝えていく、桜とともに伝えていくことにした。津波到達ラインは、生死を分けた境界でもあったが、その過酷な経験を大地にしなやかに刻む知恵があった。

\*植え継ぐということが必要で、震災を語り継ぐということと切り離すことができない。豊かな海の幸に恵まれた土地に暮らすリスクがどこにあるかを忘れない。

\*植樹にあたり多くの主体が参加することから、植えられた1本1本に物語が付け加えられていく、それが人々をひきつける。

このような特質は、桜ライン311が都市防災、都市緑化、コミュニティ形成、ボランティアツーリズム(観光)、市民交流促進など多面的な役割を担うことで地域のレジリエンスを培う新しい手法となることを可能としているといえよう。

その空間として、桜ラインは水平方向(平面的)には「ヘビ(桜ライン)がたまご(小広場や公園、各種の社会通念上の緑地等)を飲んだような」面の避難スペースを想起させ、津波に対して安全な高さにあり、避難地の孤立を解消する水平方向のネットワークを形成する。たまごは高台公園とでも呼べるような避難空間である。また、垂直方向(断面的)には、アクセスを受けて状況により2度逃げの効く高台、さらなる想定外の事態にも策を残す。いま、ふるさとの風景が急速にまた



■桜ラインと高台公園の相乗効果

大々的に変化していく日々にある。そのような生活環境の改変に対して人々に安定感をもたらすのは、変わらない大きさの太平洋・広田湾や氷上山・箱根山の眺望、長い時間をかけて築き上げられた伝統、各地の神社仏閣であり、すぐに人々が集まり復活した祭りに代表される地域文化など、陸前高田のアイデンティティを形づくる人と場、それらをとりにく風景であろう。

桜ライン311は、伸びてゆく高台にそれらの要素をつなぎ、まちづくりにおける重要な構造を可視化させる。安全圏と避難路を分かりやすく、いつでも確認させる。

そのラインは、公園や学校など各種施設の面が組み合わさって、花見に、日々の健康散歩に、また海や街

への眺望や自然ふれあい活動に、さまざまな魅力を生み出す可能性を秘めている。

桜ライン311が、地域固有の立地と資源を活用した海や港の眺望が楽しめる展望公園、わがまちを見渡す神社境内、地域の植生がよく残る崖面、古代の暮らしに思いをはせる遺跡公園などの相乗効果でどのような楽しみがもたらされるか、期待することとしたい。

#### \*あとながき

緑の復興まちづくりは10年しごとだ。桜ライン311も1万7千本の植樹をめざしている。どのようにそのしごとを発展させていくのか、これからも応援を続けていきたいと思う。

桜苗植樹の機会と貴重な写真をご提供いただいた戸羽伸一様と奥様、NPO桜ライン311のみなさんに御礼を申し上げます。

桜が花をつける春にはぜひ再訪したいものだ。ふるさと復興は健やかな緑の再生とともに、とこころから願う。

#### (追記)

この1月、桜ライン311の活動を記録した映画『あの街に桜が咲けば』(小川光一監督)が完成した。3月には13都府県19会場で公開が決まっているとのことである。

### 一般財団法人日本造園修景協会 賛助会員名簿

平成26年2月12日

賛助会員の皆様には協会運営について多大なご協力を頂いております。

番号	社名(団体名)	代表者	番号	社名(団体名)	代表者
1	(株)ウォーターデザイン	山本 誠	16	(株)小田急ランドフローラ	山内 保
2	(一財)沖縄美ら島財団	池田 孝之	17	アゴラ造園(株)	荻野 淳司
3	(株)丸山製作所	丸山 智正	18	東光園緑化(株)	田丸 敬三
4	(株)中村製作所	朝倉 辰夫	19	(株)都市計画研究所	佐藤 憲璋
5	日都産業(株)	山中 慎吾	20	(株)緑のネットワーク研究所	吉岡 俊哉
6	東光ローンコンサルタント(株)	遠藤 征矢	21	(公財)古都飛鳥保存財団	山口 昌紀
7	(公財)神戸市公園緑化協会	平井 健二	22	日産緑化(株)	築根 照英
8	日本体育施設(株)	奥 裕之	23	タカオ(株)	高尾 典秀
9	長永スポーツ工業(株)	長谷川 信	24	(株)KRC	宮入 賢一郎
10	(一社)日本公園緑地協会	丸田 頼一	25	(株)ブレック研究所	杉尾 邦江
11	(一財)公園財団	蓑茂 壽太郎	26	(株)ヘッズ	中西 広樹
12	(株)日本海コンサルタント	黒木 康生	27	大久保体器(株)	安田 透
13	(公財)神奈川県公園協会	池守 典行	28	テック大洋工業(株)	鳥潟 浩司
14	(株)富士植木	成家 岳	29	公園管理運営士会	小林 治人
15	(公財)東京都公園協会	吉川 和夫			